

ウッド・チェンジへの取組

令和7年10月3日
林野庁



参加団体等・研究機関・企業における取組等について（目次）



【団体等】

日本商工会議所	2
一般社団法人住宅生産団体連合会	3
一般社団法人日本建設業連合会	4
公益社団法人日本建築士会連合会	5
一般社団法人日本ビルディング協会連合会	6
一般社団法人不動産協会	7
一般社団法人全国木材組合連合会	8
一般社団法人中大規模木造プレカット技術者協会	9
全国知事会	10
全国市長会	11
全国町村会	12
みなと森と水ネットワーク会議	13
公益社団法人国際観光施設協会	14
一般社団法人日本プロジェクト産業協会	15
公益財団法人日本住宅・木材技術センター	16
一般社団法人日本ウッドデザイン協会	17
一般社団法人JBN・全国工務店協会	18

【企業】

東京海上日動火災保険株式会社	19
日本マクドナルド株式会社	20
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	21
ヒューリック株式会社	22
SMB建材株式会社	23
株式会社大林組	24
株式会社シェルター	25
住友林業株式会社	27
株式会社竹中工務店	28
東急建設株式会社	29
ナイス株式会社	30
前田建設工業株式会社	31
三井ホーム株式会社	32
三井不動産株式会社	33
ライフデザイン・カバヤ株式会社	34
株式会社日建設計	35
銘建工業株式会社	36

【研究機関】

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	37
----------------------------	----



ウッド・チェンジ・アクション

商工会議所は、地域総合経済団体として、地域経済の活性化に向けた事業活動を展開。木材利用促進に向けた取組みも、自治体等とも連携しながら実施している。

<岐阜商工会議所・岐阜県>

- 2022年から、岐阜高島屋、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会、十六銀行、岐阜信用金庫と連携し、「ぎふの木」をテーマとした木育イベント「木って楽しい！おもしろい！Wood Go!」を開催。
- 開催期間中は、プロ野球選手が使う木製バットを職人が手作業で削る実演会や木のエキスをブレンドしたコーヒーなど木にまつわる食品の販売も行われた。
- 親子向けの多彩なプログラムを用意し、2022年から2年連続の開催で、延べ4,300人が来場。（うち体験参加者数は、2,221人）

**<富士宮商工会議所・静岡県>**

- 2001年から、富士山麓のブランド材「富士ヒノキ」をはじめ、地元の木材を取扱う市内建設業や木材業に理解を深めてもらう目的で「夏休み親子木工教室」を開催。
- 2024年は、市内企業の職人や地元高校生から手ほどきを受けながら、約100人の親子が地元産の木材に親しんだ。
- 今では地元木材協同組合や県の林業振興団体とも連携し、2025年開催含めこれまで延べ約1,200人が参加した大好評の催事。



今後のチャレンジ

引き続き、各地商工会議所を通じて、会員企業等に対し、ウッド・チェンジ協議会で得られる情報や政府の各種施策等の周知を図る。
また、各地商工会議所等の木材活用に資する取組みの好事例を収集し、横展開を図る。

課題・連携協力の可能性

事業者等が木材利用のメリットや意義を感じられるための効果的な広報に加え、自治体や地元経済団体等との連携強化。

関連情報

岐阜商工会議所「木って楽しい！おもしろい！Wood Go!」：
<https://archive.jcci.or.jp/news/local-front/2023/0804125225.html>

富士宮商工会議所「夏休み親子木工教室」：
https://digital.kentsu.co.jp/articles/artcl_rglr/01K3AV39YF2BJ9DHDORNCKMHKO



一般社団法人 住宅生産団体連合会

ウッド・チェンジ・アクション

- 住宅生産者による花粉症対策の取組みのHP公表
～住宅生産者による国産スギ材等の利用状況～

令和5年5月30日、政府の花粉症に関する関係閣僚会議において『花粉症対策の全体像』がとりまとめられますが、その3つの柱のうち「発生源対策」では、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化および伐採したスギを住宅などの建物で積極的に活用する需要の拡大を図ることが示されました。

当連合会では、令和5年12月より、国産スギ材の利用促進に向けた住宅事業者の取組みをご理解頂くため、傘下団体の主な会員企業の国産スギ材の利用状況や、その他国産木材の利用推進に向けた取組み等を「住宅生産者による国産スギ材等の利用状況」として取りまとめ、HPにて公表しています。

今年は、企業の事業年度などの関係で前年1月～12月集計企業を1月末に、また前年4月～本年3月集計企業を4月末に更新し、公表いたしました。

今後のチャレンジ

- 持続可能性に配慮した木材供給に向けて林野庁及び国土交通省が連携して行う国産木材の安定的な需給体制の確立に、住宅事業者の立場から協力。
- 国産材利用拡大に向けた会員企業における木質構造材および木質内装部材使用の促進。
- 2050年カーボンニュートラル達成に向け、新築住宅のみならず、既存住宅の買取再販事業の拡大による断熱改修（部分断熱・部分ZEH化）の推進。

課題・連携協力の可能性

- 国産木材の安定的な需給体制の実現に呼応した国産材需要の掘り起こし。
- JAS材の安定供給に向けた製造・加工流通施設の整備、及び規格の合理化

関連情報

一般社団法人 住宅生産団体連合会 ホームページ : <http://www.judanren.or.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

大規模・中高層建築物の木造・木質化を推進

1. 社会的認知度の向上
 - ・「木造・木質建築プロジェクト一覧」の公開
 - ・木材利用と生物多様性についての検討開始
2. 木材利用のメリットの向上
 - ・木造情報を探す「もくネタ!」の制作・公開
3. RC造、S造との価格競争力の向上
 - ・標準化・規格化による木造・木質化の生産性の向上とコスト削減
4. 防耐火規制の合理化
 - ・木質建築関連法規制及びその運用の情報収集
 - ・関連法令の合理化等に向けた意見の集約、提案
5. 木造関係諸団体との協業

今後のチャレンジ

- 建設業における脱炭素社会実現への貢献
 - ・木材再利用に向けた課題整理と提言
 - ・脱炭素・生物多様性の両立
- 建設業における非住宅分野への木材利用拡大
 - ・鉄やコンクリートと併用・代替品としての木材利用
 - ・価格低減に向けた部材・接合部・の標準化
- 建設業における労働力不足と働き方改革への貢献
 - ・軽量・加工容易性による生産性の向上
 - ・工場生産・ユニット化工法による生産性の向上

課題・連携協力の可能性

- ・川上(林業)・川中(木材メーカー)と川下(事業者)との木材利用・調達における課題共有と連携協力
- ・規制緩和・合理化に向けた関連団体・行政庁との連携協力

関連情報

一般社団法人 日本建設業連合会 ホームページ : <https://www.nikkenren.com/kenchiku/wooden/>



公益社団法人日本建築士会連合会

ウッド・チェンジ・アクション

- ◆ 2020年、連合会に木のまちづくり部会を設置。
- ◆ 埼玉建築士会、愛知建築士会等において、川上から川下が連携しつつ、中大規模木造建築技術者を養成
- ◆ 2021年11月、国土交通省と連合会が、「木造建築物の設計・施工に係る人材育成等に関する建築物木材利用促進協定」を締結。
- ◆ 2022年から現在までに、14の建築士会と都県・市との間で建築物木材利用促進協定を締結。
- ◆ 2023年度、プレカット技術者協会と連携し、プレカット図の標準化を目的としたマニュアルを作成。
- ◆ 2024年度
 - ① 都市型木造として、3階建て中規模木造建築物の標準設計セミナー実施を目的としたテキストを作成。
 - ② 2023年度の継続として、プレカット図の標準化を目的としたマニュアルの改定。
- ◆ 2025年度
 - ① 連合会と建築フォーラムとの共催により、今年は関東ブロックを対象に「木の建築賞」を開催。
 - ② 昨年作成した木造3階建て設計テキストを刷新し、全国6都市において講習会を実施予定。

今後のチャレンジ

- ◆ 建築士会の協力の下でセミナー等を開催し、木造建築物の設計・施工に係る技術者を育成。
- ◆ 埼玉建築士会、愛知建築士会の取組を全国の建築士会に横展開を図り、中大規模木造建築技術者の養成を推進。
- ◆ 「木の建築賞」を木の建築フォーラムと共催し、全国7ブロック単位で巡回実施。2025年度は関東ブロックを対象に選定。
- ◆ 都道府県と建築士会による建築物木材利用促進協定の締結を推進。

【木材利用促進月間等での取組】

- ◆ 建築士会全国大会おおさか大会
 - ・近畿ブロックにおける木の建築賞作品の発表とシンポジウム
 - ・木のまちづくり部会の森林・林業に関するセッション

課題・連携協力の可能性

- ◆ 地域の木材流通ネットワーク構築のため、都道府県の建築士会と関係団体との一層の連携が重要。

関連情報

第67回建築士会全国大会おおさか大会 <https://www.aba-osakafu.or.jp/convention/>
木の建築賞 https://www.forum.or.jp/menu2_10.html



一般社団法人 日本ビルディング協会連合会

ウッド・チェンジ・アクション

- 令和5年に「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けてオフィスビル業界をリードする立場から、2030年度までの新たな数値目標を盛り込んだ「オフィスビル分野におけるカーボンニュートラル行動計画」を策定し、令和7年も継続してフォローアップ調査を実施。
- 行動計画における重点事項の一つとして「オフィスビルにおける木材利用の推進」を掲げ、建築物における国産材等の木材利用については、地域資源循環やウェルビーイング、脱炭素化への貢献が期待されていることから、中高層ビルの木造化・木質化をはじめ、オフィスビルにおける木材利用を推進する活動に取り組んでゆく。

今後のチャレンジ

- 会員企業に対する普及啓発等
国のキャンペーンと連携したシンポジウム・講演会等の開催、先駆的な木材活用を導入した優良ビル事例の紹介、見学会の実施など、会員企業に対する普及啓発等を推進。
- 木造・木質ビルの普及促進をテーマにしたビルオーナー関係者向け講演シンポジウムを2025年2月に開催予定。

課題・連携協力の可能性

- 関連施策・活動の情報周知について、林野庁・国交省等の行政機関及び関係団体（不動産協会等）との連携・協力

関連情報

一般社団法人 日本ビルディング協会連合会

会 員 数 : 1,404 (2025年4月1日現在)
ホームページ : <https://www.jboma.or.jp/>



2024年3月 当協会で策定した「不動産業における脱炭素社会実現に向けた長期ビジョン」で示した主なターゲット

一般社団法人 不動産協会



ウッド・チェンジ・アクション

- 中高層建築物における木材利用を念頭においた、
 - 内閣官房や、国土交通省、林野庁が関連する各種検討委員会等でのデベロッパーの課題認識やニーズ等、事業化に必要な情報の発信・共有
 - 前項等から得た情報の会員宛て発信や、関連団体との木材利用の普及に係る課題の検討および意見交換
 - 木材利用を検討するデベロッパーが抱える個別課題についての省庁等行政機関との協議
 - 新たに創設・改正された制度や、政府の施策に関する説明会の開催や、省庁と会員間の意見交換会等の開催

今後のチャレンジ

- 当協会の会員における取組事例を通じた新たな課題等について、関係省庁等との情報共有
- 防耐火規制、とりわけ内装制限の合理化に向けた検討や、関係省庁等との意見交換
- CLTのロードマップ策定に向けた意見発信や、策定後に開催される委員会等への出席

課題・連携協力の可能性

- 課題：コスト優位性の確保、防耐火・構造等基準の合理化、ESG評価の確立、安定供給等
- 連携協力の可能性：関係省庁・関係団体・民間企業との橋渡し

関連情報

一般社団法人 不動産協会

会 員 数：163社（2025年9月1日現在）
ホームページ：<https://www.fdk.or.jp>



ウッド・チェンジ・アクション

木材利用を優先する社会(ウッドファースト社会)の実現に向けて、地球温暖化防止、地方創生、国土強靱化などを通じて、豊かな暮らしや脱炭素社会の実現に大きく貢献する木材の利用を拡大

- 1 温暖化防止・地域活性化に貢献する持続可能な木材利用の推進
- 2 住空間、街づくりへの総合的な木材利用拡大への取組
- 3 木材産業のグリーン成長に向けた産業構造の確立
- 4 安全・安心の木材利用・供給の推進

今後のチャレンジ

- ・都市（まち）の木造化等木材利用の推進
- ・持続性の確保された木材の利用及び山元への利益還元と再造林できる体制の構築
- ・クリーンウッド法を遵守し合法伐採木材だけが流通・利用する取組の推進
- ・JAS製材品等品質・性能の確かな木材の供給と技術開発・普及の推進

【木材利用促進月間等での取組】

木材利用推進コンクール表彰式

（開催）令和7年10月28日（火）

14:00～16:00（調整中）

課題・連携協力の可能性

- ・幅広い関係者による木材利用についての国民運動の展開
- ・持続性の確保された木材利用と再造林できる体制の構築に向けて建築業界と連携・協力

関連情報

森(もり)を活かす都市(まち)の木造化推進協議会 <https://machi-mokuzouka.jp/>

木材利用推進中央協議会 <https://www.jcatu.jp/home/> もりんく <https://molink.jp/>

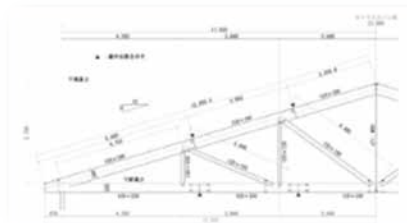
JAS構造材の利用拡大 <https://www.jas-kouzouzai.jp/> 外構部等の木質化推進 <https://love.kinohei.jp/>



一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

ウッド・チェンジ・アクション

- 1.住宅用プレカット加工機を用いた23M超スパンの加工
- ・高精度かつ低コスト化の実現
- ・プレカットと相性のよい架構を設計者と協働で計画
- ・地域材を用いた大規模建築を連携で実現



- 2.これまで鉄骨造だった建築を木造へシフトチェンジ
- ・大規模から中小規模の商業施設などを木造化し、多様な建築に対応
- ・住宅と同様の架構方式を活用することで工期を効率化
- ・建物の軽量化により、環境負荷の大きいRC基礎の仕様を簡略化



今後のチャレンジ

- 一般流通材を用いたトラス標準図の整備
- 一般流通材を用いたトラスマニュアルの整備
- 軸組工法に用いる高倍率のCLT耐力壁の開発
- 高倍率の耐力壁に用いる柱頭柱脚金物の開発
- 実例による国産材を活用した普及セミナーの企画
- トラスマニュアル（キングポスト・平行弦・張弦）
- 講習会及び見学会の実施（実例・プレカット工場）
- 恒久的な国産材利用を見据えた仕組みづくり

【木材利用促進月間等での取組】

- 中大規模木造構造設計講習会全国5か所開催
- 概算積算システムセミナーの開催
- 20M超スパントラスマニュアル講習会の開催

課題・連携協力の可能性

設計・施工・製材業者の連携や行政・団体との協働により、補助制度活用・研修開催・人材育成を進め、成功事例のPRと情報発信で市場拡大と国産材利用促進を図る。

関連情報



技術情報や講習会の予定はこちらから <https://www.precut.jp>





全国知事会

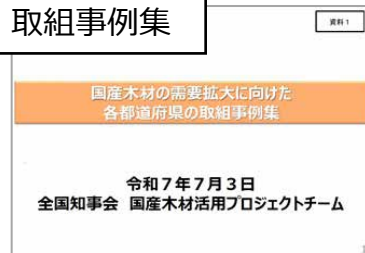
ウッド・チェンジ・アクション

- 国への提言策定・関係省庁への要請活動の実施
 - 「7つの重点事項」を中心に要請
 - ・ 民間建築物の木造化・木質化の推進
 - ・ 木材・木材製品の輸出拡大
 - ・ 財源の確保
 - ・ 建築士等の育成
 - ・ 木材の特性や木材活用のメリット・効果の発信
 - ・ 国産木材への転換促進
 - ・ 花粉症対策の推進
- 「国産木材需要拡大宣言」に基づく各自治体の取組
 - 国産木材活用推進に係る取組事例集の作成
 - いくつかの取組についてはP T会議の場で発表
⇒優良事例の横展開を積極的に実施

要請活動の様子



取組事例集



今後のチャレンジ

- 引き続き、「国産木材需要拡大宣言」に掲げる取組方針に基づき、各都道府県がそれぞれの地域の実情に応じながら、知恵を絞って個性や強みを活かした施策を実践
 - ・ 公共建築物 ・ 備品や消耗品 ・ 木塀設置
 - ・ 市区町村との連携 ・ 教育活動や広報活動
 - ・ 民間事業者へ働きかけ ・ 建築士等の育成
 - ・ 新たな製品や技術の研究開発
 - ・ 安定供給体制づくり ・ 花粉発生源対策
- 先進・優良事例について、お互いが連携して効果的な共有・発信

(各都道府県の取組)

https://www.nga.gr.jp/committee_pt/item/98d91759dbe0d9da54b02003f2ebbb0d_1.pdf

課題・連携協力の可能性

- 国産木材活用の意義や魅力の周知・啓発
 - 他団体と連携したイベント開催・P R
- 木材需要者と木材供給者を繋ぐ仕組みの構築
 - 林業DXに繋がる各種システムの構築 等

関連情報

全国知事会 国産木材活用P T H P : https://www.nga.gr.jp/committee_pt/project/kukusan_mokuzai_katsuyou_pt/
※ H P 内に「国産木材活用についての基本情報」のコンテンツがあり、木材の魅力等についてP R



ウッド・チェンジ・アクション

- ◆林政問題に関する研究会(委員市95市 令和7年8月末時点)
 - ・林野行政を取り巻く諸課題等の情報収集・意見交換を行うとともに、林野行政の今後のあり方等について調査研究を実施。
 - ・「森林・林業に関する提言」のとりまとめ。地域材の安定的・効率的な供給体制の構築、国産材の利用拡大の推進、CLTの普及、公共建築物等の木造化・木質化の推進等について提言。
 - ・委員市の取組事例

【新潟県村上市】

- CLT工法を用いて建築された「ブルボンスケートパーク村上」は、地元産材である「いわふね杉」を一部使用した完全屋内型のスケートボード施設。



【岐阜県飛騨市】

- 川上から川下の関係者とともに「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を設立し、伐採地まで特定できる高いトレーサビリティと各事業者の顔が見える独自のサプライチェーンを構築。
- 第三セクター「(株)飛騨の森でクマは踊る」を設立し、様々なクリエイターとのコラボにより、飛騨市産広葉樹を使用した家具・什器、建築、空間活用等、広葉樹材の新たな価値創造に取り組んでいる。

今後のチャレンジ

- ◆国産材の需要拡大を図る観点から、森林環境譲与税の一層の有効活用や国産材の利活用の重要性について理解を深めるため、林政問題に関する研究会において、木材の利用に係る優良事例や、先進的な都市自治体の取組等について情報共有。
- ◆国産材の利用拡大、CLTの普及、公共建築物等の木造化・木質化の推進について、提言のとりまとめ及び関係府省庁への要望活動を引き続き実施。

課題・連携協力の可能性

- ◆森林環境譲与税の更なる活用と国民理解の醸成、木材加工流通施設等の整備、公共建築物の木造化・木質化に係る財政支援、施工者の技術向上に係る支援等が課題

関連情報

林政問題に関する研究会「森林・林業に関する提言」(令和6年11月)

https://www.mayors.or.jp/p_opinion/o_teigen/2024/12/241204rinsei-teigen.php



ウッド・チェンジ・アクション

★ 岩手町「木づかい住宅等普及促進事業」

岩手県岩手町では、地域産材の利用促進等を目的に、町産・県産木材を使用する町内の住宅などの建築費用を一部補助する事業（最大200万円）を行っております。

木造住宅への見直しが進むなか、地域内の森林資源を地域で消費することで、経済林の環境保全に繋げるほか、輸送時のCO2排出など環境負荷の低減に貢献します。

★ 南相木村「村産カラマツ材使用の村営住宅」

長野県南相木村では、域内循環型林業のモデルとして村産カラマツ材を使用した村営住宅を建設しています。

乾燥・製材技術の向上によって、ネックとなっていた反り、ねじれを低減させ、建築材として利用するまでに至りました。

また木取りを工夫することで、従来は破棄あるいは木材チップとされていた木材を、余すところなく使用しています。



▲材高が揃った美しい森



▲カラマツ材を利用して建築された村営住宅

今後のチャレンジ

- 地域産材の適正な利用、管理、保全という循環利用の意義を、住民等へ周知する。
- 公共施設を皮切りに、民間施設や一般住宅においても、地域産材による木造化を推進する。
- 森林環境譲与税等を活用し、山間部の町村（川上）と、木材を消費する都市（川下）間の交流・連携を推進する。
- 都市住民と森林・林業との関わりの入口として、森林サービス産業の育成を推進する。

課題・連携協力の可能性

- 林業の担い手確保、労働災害の防止
- 間伐や枝打ち、下刈りなど、限定的な作業を行う「多様な林業人材」を地域内外にて育成する。

関連情報

- ・岩手県岩手町（HP） <https://town.iwate.iwate.jp>
- ・長野県南相木村（HP） <https://www.minamiaiki.jp>



みなと森と水ネットワーク会議

ウッド・チェンジ・アクション

◆2009年10月、二酸化炭素の削減に取り組む都市部の港区と、林業の活性化を図る森林資源が豊富な全国の自治体とが、それぞれの課題解決を図る連携組織「みなと森と水ネットワーク会議」を発足

◆2011年10月、港区内で床面積5,000㎡以上の建築を行う建築主に対し、床面積1㎡当たり0.001㎡以上の協定木材（※1）又は国産木材の使用の協力を要請する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を開始

※1 港区と「間伐材を始めとした国産木材の活用促進に関する協定」を締結した自治体から産出された木材

制度の全体像



今後のチャレンジ

◆「みなと森と水ネットワーク会議」の参加自治体の首長と更なる木材活用促進に向けて意見を交わす「みなと森と水サミット」を引き続き開催（昨年のサミットでは「森林環境譲与税の使途」を意見交換）

【木材利用促進月間等での取組】

- ・みなと森と水サミット開催
- ・「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰」受賞の表彰式を開催
- ・ちいき百貨+2025の開催

課題・連携協力の可能性

【課題】協定木材の更なる利用促進

【連携協力】協定自治体数 78自治体

みなとモデル登録事業者数 約400社（※2）

※2 協定自治体産の木材を製材・加工・取引可能な事業者数

関連情報

ホームページ：<http://www.uni4m.or.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

■ 木づかい関連セミナーの開催

- ・2025年8月6日 16:00～19:00
- ・タイトル：「建築・都市の木質化
：Nikken Wood Labが今、目指すこと」
- ・講師：日建設計 大庭拓也氏ほか
- ・会場：日建設計 PYNT
- ・参加者：協会正会員39名
- ・主旨：建築・都市の木質化に取り組まれている
Nikken Wood Labの近年の研究や実績を幅広く紹介、
木質化推進の啓蒙を行う。



今後のチャレンジ

木づかい事例見学会の開催

- ・7月18日：
第一生命京橋キノテラス
- ・10月2日：
Caption by HYATT兜町東京
- ・11月20日：
住友林業つくば研究所等見学会



【木材利用促進月間等での取組】

- ・ウッドチェンジ協議会の活動を定期的に会員に周知。
- ・毎年2月開催のホテル展にて協会会員の「木づかい活動」を発表展示する。

課題・連携協力の可能性

- ・会員企業は各々SDG'sの取り組みを行っており、
国産木材の活用も推進している。当協会は「木づかい」
活動を通して会員と連携し、結びつける事で、新たな
価値を創出するプラットフォームとしての機能を持つ。



(一社) 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)

ウッド・チェンジ・アクション

JAPICの目標

“林業の成長産業化” “地域創生”

○森林再生事業化委員会

(委員長：酒井 秀夫 東京大学名誉教授)

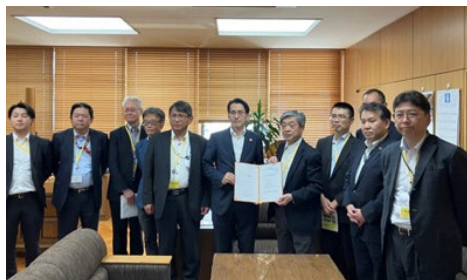
・政策提言【6月6日青山林野庁長官（当時）へ手交】

- ①持続可能な林業の普及拡大
- ②林業DX（デジタルツイン）の推進
- ③スマート林業の実装と災害対策
- ④木材利用の促進に向けた取組

○林業復活・地域創生WG

(主査：鍋山徹 日本経済研究所コンサルティングフェロー)

・WG会議及び現地視察を実施予定



青山林野庁長官(当時)への提言手交



林業復活・地域創生WG

今後のチャレンジ

- 具体的な提言に向けた委員会活動の継続
次回「林業復活・地域創生を推進する国民会議」開催に向けた取組の継続

- ①持続可能な林業に向けた資金循環
- ②地域創生
- ③人材活用

WG視察の様子



熊本県五木地域森林整備推進協定に係るWGへの参画

課題・連携協力の可能性

産官学交流のプラットフォームとして、引き続き情報共有や政策提言を精力的に実施して参ります。

関連情報

JAPIC森林再生事業化委員会：https://japic.org/project_outline/forest/index.html

林業復活・地域創生を推進する国民会議：https://japic.org/project_outline/forestry_area/index.html



公益財団法人日本住宅・木材技術センター

ウッド・チェンジ・アクション

当センターは、木材と建築に係る産・官・学界の接点となり、技術の開発普及、品質性能の向上等を推進することを目的として設立された公益財団法人

政策ニーズ、現場動向等に即した各種公益事業を通じて、木材利用の新たな道を開くウッド・チェンジに貢献

- ・C L T等新技術を用いた建築の実証、内外装木質化の効果の見える化の実証等の支援、成果データ等の公開
- ・木造建築用接合金物の開発・標準化、木質材料・木造建築供給支援システム・構造計算プログラム等の認証
- ・建築基準合理化等に対応した新開発製品・構法に対する構造・防耐火試験、性能評価
- ・木造建築物の設計等に関する技術資料の発行、講習、各種情報共有化活動の実施、グリーンウッド法に基づく事業者の登録

今後のチャレンジ

- ・中大規模木造建築の加速化のため
 - －高耐力金物の開発・標準化、BIM対応の検討
 - －技術解説書や普及資料の発行、講習会の開催等による人材育成
 - －「中大規模木造建築ポータルサイト」等の運営
 - －高強度構造試験、長時間防耐火試験の実施
 - －認証制度を通じた新技術の定着促進
- ・都市木造化のフロンティアとなっている4階建分野をターゲットとした木材流通・木造建築業界への適合性に着目した木造建築供給モデルの普及
- ・中大規模木造建築物のLCA算定の試行・検討
- ・国産木材活用住宅ラベルの普及

課題・連携協力の可能性

関係行政機関、研究機関、業界団体等が進めるウッド・チェンジ関連諸活動、プロジェクト等への積極的参画・連携に努めてまいりたい。

関連情報

(公財) 日本住宅・木材技術センター <https://www.howtec.or.jp/>
中大規模木造建築ポータルサイト <https://mokuzouportal.jp/>
中大規模木造建築データベース <https://www.daimoku.jp/>
国産木材活用住宅ラベル協議会 <https://kokusanmokuzai.jp/>



一般社団法人日本ウッドデザイン協会

ウッド・チェンジ・アクション

■ ウッドデザイン賞

木を使うことによって社会課題の解決を目指す「ウッドデザイン」の定義により、優れた建築や製品、活動や研究等を生活者目線で評価し表彰を行う顕彰事業を主宰



🏆 2024年受賞 🏆 最優秀賞 (農林水産大臣賞)

浦河フレンド森のようちえん

■ 会員による部会活動

木を積極的に活用したいと考える企業や団体、自治体など業界横断型のプラットフォームとして、「ビジネスマッチング部会」、「調査研究部会」など4つの部会を運営

■ 木材利用の意義、木の効果効用の普及

- 木造建築物・木製品などの山への循環やカーボンニュートラルへの貢献を分かりやすく表出した、「Japan Wood Label」、「Wood Carbon Label」を運用管理
- 木の効果・効用についてエビデンスをもって知る機会を提供したWebサイト（ウッドデザイン・ライブラリー）運営

今後のチャレンジ

- 大阪・関西万博フューチャーライフビレッジ
林野庁イベント「Wood Change 2025」にて
ウッドデザイン賞作品を展示
(9/23-29)



日本の木材利用の魅力を
海外にも発信

- WOOD DESIGN EXPERIENCE@福岡
(10/24・25)
花粉症対策につながる木材利用の普及啓発

課題・連携協力の可能性

- 会員間における、木を軸としたビジネス、CSV経営両面での更なる連携
- 自治体との地域産材活用拡大にかかる連携

関連情報

[林野庁 大阪関西万博 特設サイト「Wood Change 2025 使おう、日本の木」](#)
[木を活かしたい方のためのデータベースサイト | JWDA WOOD DESIGN LIBRARY](#)



ウッド・チェンジ・アクション

1. 持続可能な木材の利用
 - ・木板張り仕様の準耐火構造外壁の開発
 - ・□準耐火建築物1号の梁受金物の開発
2. 環境教育・啓発活動
 - ・工務店の実務に役立つ木材の情報提供
3. 地域との連携
 - ・各地域での「木材利用促進協定」の締結推進
4. 木造建築技術の普及
 - ・施工管理マニュアルの普及
 - ・マンション木質化およびJAS材の普及促進
5. 国産材活用と住宅供給
 - ・県産材を活用した応急仮設住宅の供給
 - ・地域工務店による国産材住宅づくりの推進
6. 木材利用と脱炭素の推進
 - ・ホールライフカーボン削減効果の発信強化
 - ・「国産木材活用住宅ラベル」の普及による
カーボンニュートラル・花粉症対策への貢献

今後のチャレンジ

1. 会員工務店への定期的な研修、セミナーの開催、専門家とのネットワークを通じて知識と技術の普及を図る。
2. サプライチェーンの構築により、国産材の需要と供給の安定化を図る。
3. 地域固有のニーズや状況を把握し、木造住宅、非住宅・低中層木造建築の受注支援を行う。

課題・連携協力の可能性

各地域の行政や川上・川中・川下間の情報を共有することにより、相互の価値感や背景への理解を深め、より円滑な関係構築を目指す。

関連情報

一般社団法人JBN・全国工務店協会 ホームページ : <https://www.jbn-support.jp/>



東京海上日動火災保険株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

<新・本店ビル計画>

～国産木材を使い木の使用量が世界最大規模となる高さ 100m の「木の本店ビル」へ～

- ◆ 柱や床などの構造材を含め、これまで他に例のないレベルで国産木材を利用し、世界最大規模の木造ハイブリッド構造による超高層オフィスビルをめざします。
- ◆ 木材には、戦後植林され利用期を迎えた国産木材を用いることで、造林、伐採、利用、再造林のサイクルを需要者として支え、山林の保全や水源の涵養、地方経済の活性化など、循環型社会の実現に貢献します。

2024年12月着工→2028年度竣工予定



所在地	東京都千代田区丸の内1丁目6番1
敷地面積	10,147.61 ㎡
主要用途	事務所(本店ビル)、駐車場等
構造	S造/木造/SBC造
規模	地下3階、地上20階、塔屋2階
建物高さ	約100m
延床面積	約130,000 ㎡

※国際的なグリーンビルディングの認証プログラムである LEED® のv4 ににおける「LEED® for Building Design and Construction: New Construction」の категорияで最高レベル「Platinum」の予備認証を取得

今後のチャレンジ

- ◆ 一般的なビルに比べて建築時の CO2 排出量を3割程度削減することに加え、高効率の設備や地域冷暖房の採用、使用電力に100%再生可能エネルギーを導入するなどの施策により、省エネルギーの推進、脱炭素社会の実現に貢献します。
- ◆ 東京海上グループは、これからもステークホルダーの皆様とともに、災害レジリエンスの向上、健やかで心豊かな生活の支援、気候変動対策の推進、D&I の推進・浸透に繋がる取り組みを通じて、SDGs の達成に貢献します。

課題・連携協力の可能性

木材の魅力発信や、木材利用促進に引き続き取り組み、木材需要の創出や林業従事者の雇用の創出に寄与し、我が国の林業の再生、ひいては地方創生、地域循環型経済の構築につなげてまいります。

関連情報

東京海上日動火災保険株式会社ホームページ : <https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

2023年2月に林野庁と建築物木材利用促進協定を締結後、以下の取り組みを行っている。

- ・拡張性を実現した在来軸組工法モデルにアップデート
国産木材使用率は最大88%を達成

投資最適化店舗

DT-150/240



ポテンシャルに応じたライトサイジングモデル

売上連動拡張型店

DT-Cシリーズ



更に幅広い年商に対応

- ・2023年：37店舗、1,084m³の国産木材を使用
 - ・2024年：41店舗、1,669m³の国産木材を使用
 - ・2025年：49店舗、2,750m³の国産木材を使用見込み
- ⇒ 3ヶ年の目標であった5,500m³を達成できる見込み
- ・2025年9月に茨城県と建築物木材利用促進協定締結

今後のチャレンジ

- ・建方工事日数の更なる短縮
- ・寒冷地仕様の木造躯体の開発
- ・建設地域周辺の木材の利用
- ・助成金制度の活用

課題・連携協力の可能性

- ・一般流通材（スギ、ヒノキ）を使用した在来軸組工法でマクドナルド店舗を建設してくれる地域の建設会社・工務店との連携を深めていきたい。



【会員名】株式会社セブン-イレブン・ジャパン

ウッド・チェンジ・アクション

令和6年度・木造店舗数 = 18店舗を開店
(九州5店、四国3店、本州4店、北海道6店)

- ・1店舗あたり木材平均使用量 = $27\text{m}^3/\text{店}$
- ・1店舗あたり国産材平均使用量 = $14\text{m}^3/\text{店}$
- ・1店舗あたり外国材平均使用量 = $13\text{m}^3/\text{店}$

令和7年度・木造店舗数 = 25店舗を予定

実施内容

- 2024年8月・農林水産省と「木材利用促進協定」の締結を実施
- 2024年8月・地域産材の活用を最大にアピールする象徴的な店舗「福岡ももち店」を開店
- 2024年11月・京都市の公園内に京都市産材を100%活用した「伏見北鍵谷公園店」を開店
- 2025年度・国産材比率を91%まで高めたテスト店舗を5店舗開店予定
(内、栃木県、新潟県では県産材100%使用した店舗を建設予定)

今後のチャレンジ

- ・国産材比率を91%まで高めたテスト店舗を実施

イメージ図



【木材利用促進月間等での取組】

行政（福岡市）マスコミ（RKB毎日）と連携した普及活動の実施【RKBカラフルフェス2024】での木育



課題・連携協力の可能性

標準工法（軽量鉄骨工法）と比較して経済合理性に課題。工法改善と共に新規提案に期待。

関連情報

株式会社セブン-イレブン・ジャパンホームページ : <https://www.sej.co.jp/company/>

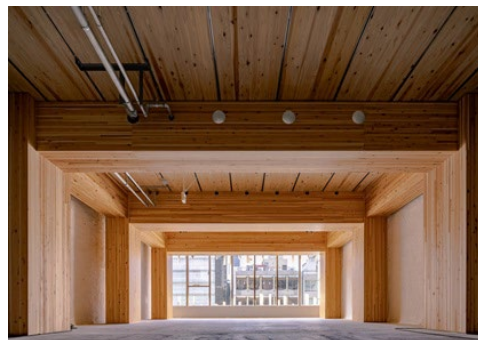


ウッド・チェンジ・アクション

HULIC &New GINZA 8



- 延床面積 2,459㎡
- 階数 地上12階/地下1階
- デザイン監修 隈研吾建築都市設計事務所
- 設計・施工 竹中工務店
- 竣工 2021年10月15日



- 国産材使用量 約300㎡
- 炭素貯蔵量 約217t-Co2
- 使用した木材のもととなる立木と同量の伐採・植林・下刈り(5年間)を実施
- 耐火集成材の柱・梁、CLTの天井を、テナントは内装としてそのまま使用

今後のチャレンジ

- ・中高層非住宅建築や低層高齢者施設の木造化、木質化
 - ・・・木とRC・Sを適材適所に使用した木造化を推進することで経済的にも合理性の高い建築を設計
- ・国産材の積極的使用

課題・連携協力の可能性

- ・他企業との連携による、ローコストと躯体寸法の最小化を実現する耐火木材の開発

関連情報

ヒューリック株式会社ホームページ

<https://www.hulic.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

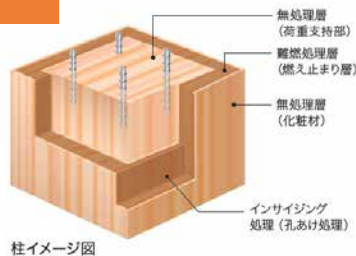
純木質耐火集成材 『サミットFR工法』のご提案

純木質耐火集成材は耐火構造でも「木」をあらわして使用することが可能な部材です。GIR接合であるサミットスーパーHR工法やサミットHR工法等と組み合わせて使用することで、接合部も露出しない、木のぬくもりある空間を実現できます。間柱・小梁等の部分使いも可能。耐火木造建築の世界に新たな空間構成を提供します。

【中富良野町立なかふらの学園】（北海道空知郡中富良野町）

■ 延床面積：9579.20㎡

■ 構造・規模：鉄筋コンクリート造（アトリウム型プレイコート 屋根部分 木造※）3階建



柱イメージ図



梁



今後のチャレンジ

- ◆ 中・大規模建築 30年以上の経験を活かした技術開発と更なる品質の向上の促進、提案力の強化
- ◆ 構造部材をあらわして使用できる燃え代設計の普及啓発 及び 純木質耐火集成材の促進
- ◆ S/RC造との混構造や木造でも工法の使いわけなど、「木」をよりよく活かすための構造・工法・部材の啓発
- ◆ クライアントへの普及活動の継続

課題・連携協力の可能性

- ◆ 川上から川下（森林組合・製造工場・加工場 及び設計事務所・元請・クライアント）との連携強化
- ◆ GIR研究会を通じたGIR接合の整備及び品質・普及啓発活動の促進

関連情報

SMB建材(株) 木構造事業本部

<https://summit-hr.com/>





ウッド・チェンジ・アクション

①木造都市実現への取組 中高層木造実績



①岩谷産業神戸研究所
(2024年10月竣工)
(上層4層の外周柱梁が木造)



②キャプションby Hyatt兜町東京
(2025年7月竣工) 撮影 エスエス
(3～12階の柱・梁の一部が木造)



②アトラン・セントラル
地上39階、高さ186m
(2026年竣工予定)
(メガストラクチャー内に
各層4階建て木造)

②大林組ビジョンショーケース テーマ:「脱炭素」



①木造木質の取組みを脱炭素の
一つと位置付けた展示



②Circular Timber Construction (木材利用推進) の
からくり模型

今後のチャレンジ

Circular Timber Construction (CTC) の取組み推進 (オープンCTCの推進)



顧客と連携した木を中心とした資源循環活動

課題・連携協力の可能性

- ①グループ会社スナダヤとの連携強化
- ②木材利用による生産性向上
- ③オープンCTCによる提供価値創造



ウッド・チェンジ・アクション

木造ビル実現による都市の木造化・木質化 「SANKEN御徒町BLD」 (2025年6月竣工)

運営 : 三絹(株)
総合監修 : DESIGNWORKS合同会社
設計・監理 : 佐藤千弘建築設計事務所
ビル管理 : (株)ビルバンク
構造設計・施工 : (株)シェルター
地域地区 : 商業地域・防火地域
建設地 : 東京都台東区上野
規模 : 階数 地上3階／延床面積 106.28㎡
構造 : 木造
木材使用量 : 35㎥／炭素貯蔵量 : 27t-CO₂
◆木質耐火部材「COOL WOOD」採用



今後のチャレンジ

「木造都市」の実現

木質耐火部材を活用した木造ビルの普及・拡大



世界最高高さ110m 地上24階建て
純木造超高層ビル建築の技術を確立

[2025年7月15日
ニュースリリース](#)



課題・連携協力の可能性

・(一社) 日本木造耐火建築協会を通じた 木造耐火技術の普及

2025年6月、国立研究開発法人 建築研究所
監修『木質耐火部材を用いた 木造耐火建築物
設計マニュアル 2025』発刊。
隔月で[オンライン講習会](#)開催中。



・他企業との連携による木造技術開発

関連情報

【HP】<https://shelter.inc/>

【Facebook】[@shelter.fb](#)

【Instagram】[@shelter.ig](#)



ウッド・チェンジ・アクション

◆木質耐火部材 COOL WOOD 「EPD（環境製品宣言）」取得

構造耐力上主要な部分において、複数の建築素材を組み合わせた複合体のEPD取得は、建築物のCO₂排出量を可視化し、エンボディドカーボン削減に向けた具体的な取り組みを可能とするとともに、LCAの算定・評価を促進するための重要な指標となります。

さらに、EPD取得製品の使用が加点要素となるグリーンビルディング（環境配慮型建築）での採用や、海外市場での需要拡大も期待されます。



対象製品：COOL WOOD
（1時間耐火仕様・柱）
登録番号：HUB-3377
GHG排出量：2,82E+02kgCO₂e



対象製品：COOL WOOD
（2時間耐火仕様・柱）
登録番号：HUB-3440
GHG排出量：2,88E+02kgCO₂e

今後のチャレンジ

- ◆木質耐火部材を活用した木造ビルの普及・拡大
- ◆プラチナ森林産業イニシアティブ（三菱総合研究所他）と連携した「木造都市（まちの木造化・木質化）の展開」

<https://platinum-network.jp/forest-industry-initiative/>

課題・連携協力の可能性

- ・（一社）日本木造耐火建築協会を通じた木造耐火技術の普及
2025年6月、国立研究開発法人建築研究所監修『木質耐火部材を用いた 木造耐火建築物設計マニュアル 2025』発刊。
隔月でオンライン講習会開催中。



- ・他企業との連携による木造技術開発

関連情報

【2025年9月18日 ニュースリリース】木質耐火部材 COOL WOOD「EPD（環境製品宣言）」取得
<https://shelter.inc/news/coolwood-epd>



ウッド・チェンジ・アクション

◆中大規模木造建築の普及に向けた設計・施工事例

＜木造混構造 6 階建て 社宅＞ 2025年6月5日ニュースリリース



物件名：みどりのの庭
所在地：茨城県つくば市
構造：RC造+木造（耐火）
階数：地上6階建
延床面積：2,124.07m²
着工：2024年5月
竣工：2025年5月
木材利用量：322m³

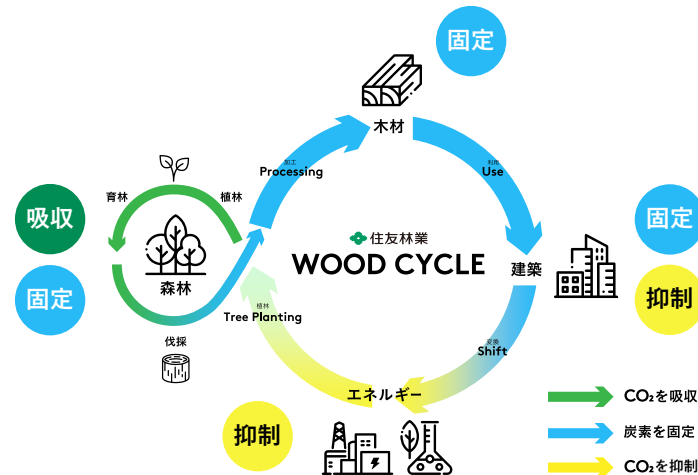
＜純木造 3 階建て 学生寮＞ 2025年2月25日ニュースリリース



物件名：東京農業大学青雲寮
所在地：東京都世田谷区
構造：木造（準耐火）
階数：地上3階建
延床面積：1,250.39m²
解体着工：2024年1月
竣工：2025年1月
木材利用量：約300m³

今後のチャレンジ

ウッドサイクルを回して、吸収・固定・抑制の3つのアプローチで「脱炭素インパクト」を作り出す



課題・連携協力の可能性

建物のCO2を見える化するソフトウェア

『One Click LCA』の販売・算定受託事業と併せ、建材の環境認証ラベル『EPD』の取得推進事業も進めています



関連情報

Mission TREEING 2030
ニュースリリース2025
One Click LCA

https://sfc.jp/information/ir/library/statements/pdf/2024-4q_gaiyo_01.pdf
<https://sfc.jp/information/news/news2025.html>
<https://sfc.jp/treecycle/value/oneclicklca.html>





ウッド・チェンジ・アクション 2025年

①施工実績



用途：複合施設（事務所・店舗）
構造：RC造+木造
竣工：2025



用途：教育施設
構造：木造
竣工：2024（木造棟）

②木材利用普及活動



◀ 非住宅木造建築フェア2025
2025年6月4・5・6日
東京ビッグサイトにて開催



モクタス n°7 ▶
2025年5月に発行

③モクタスキューブ(可搬型木造建物)

可搬型木造建物「モクタスキューブ」を、震災などの有事の際、被災者の応急仮設住宅として速やかに供給するため、自社建設現場の作業所仮設事務所等として導入し備蓄することを決定。



今後のチャレンジ

フォレストアクション

2025年6月より、「スマート林業」の実証を東京都あきる野市で開始。

【建設業の知見を活かし、
林業分野への進出を目指す。】



今後の展望

実証の成果を踏まえ、事業エリアを拡大予定。



課題・連携協力の可能性

- ・「スマート林業」実証を踏まえ、山と都市をつなぐサプライチェーンの構築。
- ・森林環境教育等の企画実施。

関連情報

モクタス（木造・木質建築）ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/moctas/>
東急建設(株)ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/>





ウッド・チェンジ・アクション

建築領域：本社外装木質化二期工事



本社外装での木質化実証実験。スギ・ヒノキ・アカマツ圧密材を用いたウッドカバー工法により外装木質化。

産業資材領域：トラック床板の国産材への代替



従来使われていた南洋材から国産材への代替。グリーンウッド使用促進、軽量化による燃費改善、積載量の増加に貢献する。

暮らしの領域：家具・木製品類



高い形状安定性を持ちながらスギの軽さ・温もりを維持した製品類。

今後のチャレンジ

- 建築領域_外装：ウッドカバー工法の普及活動
- 産業資材領域_トラック：車体架装メーカー・貼り換え業者へのPR
- 暮らしの領域：住宅設備機器メーカー、オフィス家具メーカーとの開発強化

【木材利用促進月間等での取組】

9月3日-4日 木と暮らしの博覧会 開催

9月6日-11月25日 OZONEカタログライブラリー
登録企業紹介展示

11月20日-21日 多摩産材利用拡大フェア

課題・連携協力の可能性

生産から販売までを担う、ご当地Gywood®のサプライチェーンの構築。

関連情報

表層圧密テクノロジー Gywood® : <https://gywood-muku.jp/>

大径木高耐久赤身材 ObiRED® : <https://obired.jp/>

ナイス株式会社 ホームページ : <https://www.nice.co.jp/>



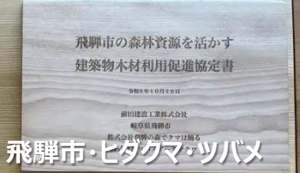
Gywood® HP



前田建設工業株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

■ 木のプロジェクトが広がっています ■ 木材利用促進協定を締結しました



■ WC協議会での試設計を 展示会で紹介しました



■ 飛騨との連携協定の取り組みが 始まりました



今後のチャレンジ

昨年、帝人株式会社と開発した剛接合技術や、飛騨市の広葉樹を使った内装提案、さらに設計施工全物件でホールライフカーボンを算出する取り組みなどを複合的に活かしながら、木材利用の普及・拡大を目指します。

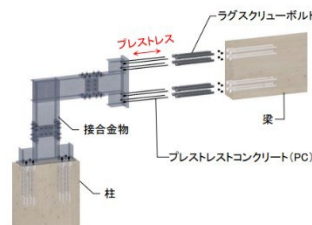


図-1 柱梁接合部の概要

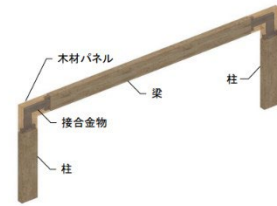


図-2 本工法を用いたラーメン構造の概要

課題・連携協力の可能性

飛騨市との連携協定に基づき、森林のめぐみを活かし、地域の持つ環境価値と、都市の持つ経済価値を循環させることで相互の課題解決につなげる取り組みを推進します。

関連情報



木で建ててみよう 前田建設×木

木で建ててみよう | 前田建設×木 (kidetatetemiyou.com)



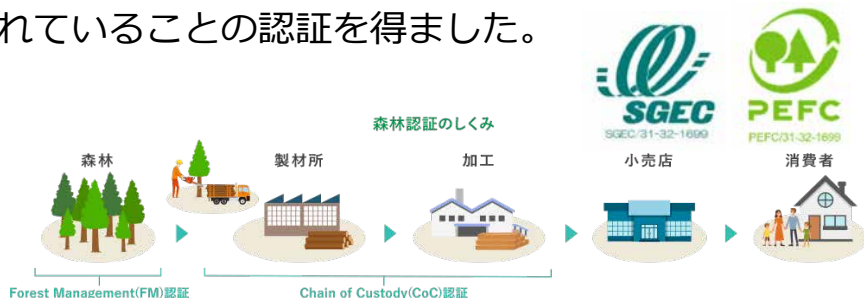
私たちは木で建てることを通じて多面的に社会とかわかり、木に寄り添いながら新しい価値を作り出していきたいと考えています



ウッド・チェンジ・アクション

◆森林認証「SGEC-COC認証」を取得

森林から伐採された木材（FM認証材）が、加工・流通の過程を経て建物として顧客へ引渡されるまで、適切に管理されていることの認証を得ました。



◆「日経ニューオフィス推進賞」を受賞

三井ホームグループが集約する新オフィス（江東区新木場・2024年5月入居）が、第38回日経ニューオフィス賞にて「ニューオフィス推進賞」を受賞しました。

「木」を多様に活かしたデザインや空間の工夫で、組織の垣根を越えたコミュニケーションと連携を目指します。



今後のチャレンジ

◆「SE工法」の展開

株式会社エヌ・シー・エヌと連携しSE構法(木造)を活用して、耐震性に優れ、自由度の高い空間を実現する選択肢を増やし、多様な建築物のさらなる木造化を推進します。

◆CLT箱型ユニット交番を施工

北海道では8例目、三井ホームでは初となる構造躯体であるCLTセルユニットで構成された交番を北海道にて初めて施工します。

【木材利用促進月間等での取組】

◆北海道旭川市美瑛にて植林研修を実施。

課題・連携協力の可能性

◆企業連携型SDGs 教育施設「くまもとSDGs ミライパーク」にブース出展

◆世田谷区の築250年以上の歴史的建造物「旧用賀名主邸」を保存・再生。経年優位の街づくりに貢献。

関連情報

- ・ 2025.2.4 ニュースリリース 『三井ホーム国際的な森林認証を取得』
- ・ 2025.7.22 ニュースリリース 『三井不動産グループが「木の魅力」を体験できるブースをオープン』
- ・ 2025.8.12 ニュースリリース 『第38回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞を受賞』



ウッド・チェンジ・アクション

国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビル着工

「日本橋に森をつくる」というコンセプトのもと、
木造オフィスビルならではの新たな価値創造に挑戦



▲（仮称）日本橋本町一丁目3番計画
外観 完成予想パース

- ・ 地上18階建、高さ84m、延床面積約28,000㎡の**国内最大・最高層**となる木造賃貸オフィスビル
- ・ **国内初適用となる木造・耐火技術を多数導入し、1,100㎡超**の国産木材を構造材に使用
- ・ 同規模の一般的な鉄骨造オフィスビルと比較して、**建築時CO₂排出量約30%の削減効果**を想定
- ・ 木ならではのやすらぎとぬくもりを五感で感じられる空間を創出し、生産性の向上等、木造オフィスビルだからこそ実現できる「**行きたくなるオフィス**」を目指す

2026年度竣工予定

今後のチャレンジ

三井不動産グループが北海道に保有する森林約5,000haの木材の一部を構造材および内装・仕上げ材に使用
「植える→育てる→使う」のサイクルによる“終わらない森”創りに取り組む



▲エントランスホール 完成予想パース

課題・連携協力の可能性

- ・ 竹中工務店と連携し、森林資源の循環を目指す企業として、お互いのノウハウを集結させ、本計画の検討を推進
- ・ 主要な構造部材には竹中工務店が開発した耐火集成材「燃エンウッド」を採用

関連情報

国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビル着工

「日本橋に森をつくる」“終わらない森”創りを通じた持続可能な社会の実現に貢献

https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2024/0111_01/

（2024.1.11ニュースリリース） 33



ウッド・チェンジ・アクション

地方ビルダー・工務店を中心にCLT活用ネットワークを構築し、ノウハウの共有を図る。

また、工務店においても、一般的には鉄骨造とされているガレージハウスをCLTの高強度を活用したうえで、施工難易度も低くし、工務店での企画化・普及型へと導く。

完成時の事例公開に積極的に取り組んでいきつつオーナー向けに成功事例も伝えていく。



今後のチャレンジ

中層建築へのCLT活用による様々なメリットを発信していく。

下記事例にて、現場及び完成時の公開機会をもち中層建築へのCLT活用を推し進めるきっかけとしたい。現場においては、CLTの構造・強度としてのメリットを、完成時には現しによる視界的なメリット等を訴えたい。



課題・連携協力の可能性

CLT建築物は、以前は西日本中心であったが、現在は東日本案件の増加がみられる。その中での課題として、輸送コストを挙げる。
東日本でのマザーボード供給に今後期待したい。

関連情報

【HP】<https://nc-labo.jp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/ncIFAN/>

【X】https://x.com/Nippon_CLT_labo



ウッド・チェンジ・アクション

川上から川下をつなぐウッドコーディネーション

建築の木造木質化の社会実装をめざし、設計者に木材や地域材の特性や法制度を伝えるとともに、設計支援ツールの整備を推進。川上から川下をつなぎ、未来を担う木質社会の基盤づくりを進める。

「つな木」の地域連携の促進

木質ユニット「つな木」を軸に、地域の事業者との協働を進める。木材利用の普及を図るとともに、地域循環型の仕組みづくりにも寄与する。

都市での普及啓発と循環

代々木公園など都市イベントで木の魅力を発信。熊本の祭りでは地域材を活かし地元の人々が手がける空間づくりを展開。



地域材設計事例 | 三河安城交流拠点



INSPIRE TOKYO 2025



熊本県・南小国町 新嘗祭

今後のチャレンジ

- ・ 森林資源の循環、国土の保全を目的とした
都市・建築の木質化の研究および実践
- ・ 中大規模における**木造・木質化建築の設計**
- ・ **木造・木質化のコンサルティング**
- ・ 川上・川中・川下をつなぐ**ウッドコーディネーション**
- ・ **木造木質設計支援ツールの整備**
- ・ 木質ユニット「つな木」の普及

課題・連携協力の可能性

- ・ サプライチェーン全体との共創・協働
- ・ 木造木質設計を担う人材の育成・支援

関連情報

Nikken Wood Lab : <https://www.nikken.co.jp/ja/insights/tsunagi.html>

つな木 : <https://tsunagi-wood.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

これまでも木材利用分野をより広げるため、集成材やCLTの製造・加工、非住宅木造の設計から施工まで手掛けてきた。
木造ビルなど中・大規模建築で利用されるCLTの普及と超大型集成材の製造設備導入で、国産材利用と木造建築を推進する。



住宅用集成材
トップクラスのメーカー

超大型集成材設備
木造ビル等で使われる
巨大な木の柱を製造可能

CLTの製造・加工
国産材を活用し、
木造建築を推進

木質バイオマス発電設備
工場から出た木くずで発電

自社製品である集成材、CLTが使われた事務所兼ショールームが2020年に竣工。バイオマスも含めた木材利用を知ってもらう拠点に。



本社事務所（外観）
2020年竣工

本社事務所（内観）
集成材とCLTの事務所

本社事務所
小学生見学の様子

今後のチャレンジ

- ・非住宅用集成材とCLTの製造量アップ
- ・非住宅木造の市場化の取り組み

【木材利用促進月間等での取組】

- ・日本木工機械展（10/2～4）へのCLT・集成材展示物貸出し
- ・非住宅木造建築フェア関西展（10/30～31）への出展

課題・連携協力の可能性

CLTについて、設計者を中心により多くの人に知ってもらうための取り組み、使いやすい仕組み作りを推進する

ゼネコンや住宅会社との共同開発を積極的に進める

関連情報

銘建工業webサイト webカタログ (<https://www.meikenkogyo.com/catalog/>)
銘建工業オフィスツアー動画 (<https://www.youtube.com/watch?v=YIRaouT6j-4>)



ウッド・チェンジ・アクション

国産広葉樹材の利用促進に向けて

①国産広葉樹材の材質・加工特性に関するデータを整備
→国産の早生広葉樹や地域の小径広葉樹など、これまで用材として活用されてこなかった未活用広葉樹材を、国内の家具・内装材製造業において原料として有効活用するため、センダン、ホオノキ、ハンノキ、コナラの4樹種を対象として、材質、物理特性、加工特性、乾燥特性を明らかにし、それらのデータを公開。

②センダンのグレーディング基準の試案を作成

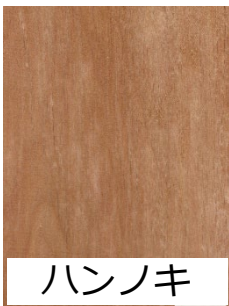
→国産広葉樹材の板材流通の拡大に向けて、センダンをモデルケースとして板材の供給者と需要者が取引の際に共通の品質基準として利用可能なグレーディング基準の試案を作成しその有効性を検証。



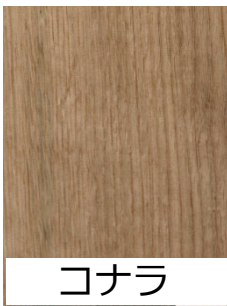
センダン



ホオノキ



ハンノキ



コナラ

今後のチャレンジ

用途に応じた木材製品の安定供給に向けて

大径材の加工・流通システムの開発、国産早生樹種等の利活用技術の開発

非住宅・中高層建築物等への利用拡大に向けて

CLTの利活用技術や新たな木質材料の開発、木質材料・木質構造の性能維持管理技術の高度化、木材ならではの快適性・健康機能・環境優位性の創出

【木材利用促進月間等での取組】

・公開講演会「2050年の森：人口減少社会において森林の果たす役割とは」を開催
(10月15日(水) 13時30分～ つくば市で開催)

課題・連携協力の可能性

- ・新規木質材料の製造技術の小規模実証
- ・新規木質材料およびそれらを用いた木質構造の実大性能の評価
- ・木質構造・木質空間の良さの科学的解明

関連情報

<研究プロジェクト紹介> <https://www.ffpri.go.jp/research/project/sendan.html>

<公開講演会> <https://www.ffpri.go.jp/event/2025/20251015ffprilec/index.html>





ウッド・チェンジ協議会の取組に関する資料は
林野庁ホームページにて御覧いただけます。
是非とも、御覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wckyougikai.html>

